

福祉科授業指導案

石川県立能登青翔高等学校・教諭

指導日時・教室 平成18年9月12日(火) 3・4限 教室名:機能訓練室
 対象生徒・集団 総合学科 介護福祉系列 3年次生17名 (内訳:男子5名 女子12名)
 科目名 基礎介護(単位数4)
 使用教科書 基礎介護(中央法規) P.85~87

1 研究テーマ

- (1) 研究テーマ 「生徒自らの体験を活かし、自ら考え、表現する授業の実践」
 (2) 研究テーマ設定の理由

生徒は施設実習を終えたばかりであり、これまでの体験を活かし、学びを深めてもらいたい。そして、その体験と知識を活かし、自分なりに問題解決の方法を考える力を身につけたい。生徒の中には、自分の意見を表現することが苦手な生徒も多く見られるが、自分の経験を活かし、生徒同士で意見を出し合うことを通して、自発的に今回の学習を深めてもらいたい。

2 単元(題材)名 「介護技術の基礎」

3 単元(題材)の目標

- それぞれの介護の意義、目的を理解した上で、高齢になることにより生ずる生活上の変化について理解を深めている。 【知識・理解】
- 日常生活の援助として、安全・安楽で自立を目指した介護の基本的知識と技術を身につけ、介護技術を総合的に活用する必要性を理解している。 【知識・理解】【技能・表現】
- 介護事例に応じた介護の方法を思考し、自尊心や意欲を高め、生きがいに満ちた心豊かな生活ができるように援助する方法を具体的に考えることができる。 【思考・判断】

4 指導にあたって

(1) 生徒の状況

対象生徒は、介護福祉士国家資格の取得を目指し努力している生徒(7名)から、福祉以外の進路を志す生徒もあり、科目に対する学習意欲に大きく差が見られるのが特徴といえる。しかし、高齢者や障害者との関わりを好み、介護技術への関心は高い。現在、本校介護福祉系列として最後の介護現場実習を終えたばかりであり、実際の現場の技術・知識を振り返り、再吸収する大切な時期であると考えられる。

また、生徒の中には、自発的に自分の意見を主張できる生徒とそうでない生徒がいるが、少人数でのグループワークを通して、それぞれの体験による学びを分かち合い、意見を出し合える関係作りを図っていききたい。

(2) 指導方針・方法

生徒は、これまで「介護の意義」について学ぶ機会が少なかったように思われる。介護現場実習を終えた今、体験を踏まえてそれぞれの介護における意義を学び理解することは効果的であり、また今後、介護現場で働くことを希望している者にとって非常に重要であると考えられる。

指導方法は、生徒同士が自分の体験を語り、分かち合い、また教師の講義を通して、その意義や目的を再確認したい。次に、グループに分かれ、挙げられた事例に対して、その意義・目的を踏まえ、「個別性の尊重」「安全・安楽」「自立支援」「プライバシーの保護」など「生活の快」を目標とした視点に立って意見を出し合い、発表していく。また、事例検討する際には、実際に体験できることは体験し、要介護者の視点に立って考えてもらいたい。

(3) 教材選定の理由

介護を提供する上で、「その介護、その介助方法にはどのような意味があるのか。」「なぜその介護を提供しなくてはならないのか。」を理解することは、なくてはならない知識である。生徒がこれまで介護現場実習で実施してきた介護技術をもう一度振り返り、体験し、深めてもらいたい。

5 単元（題材）の指導計画（総時数 22 時間）

第一次 高齢者援助のあり方 （4時間）

第二次 介護技術の基礎 （18時間）

1～3時 衣類の着脱の介護

4～6時 排泄の介護

7～9時 食事の介護 …… 本時（8・9時）

10～12時 清潔の介護

13～15時 運動・移動の援助

16～18時 環境のととのえ方

6 本時の指導と評価の計画（第 二 次 第 8・9 時）

(1) 本時のねらい

- ① 介護サービス利用者の状態に応じた食事について理解し、それを踏まえた上で食事を楽しむ方法について思考を深めている。 【知識・理解】【思考・判断】
- ② 自分の考えを持ち、意欲的にグループワークに取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】

(2) 準備・資料等 教科書

教科書、ワークシート、介護食（市販品）、食事（副菜にあたるもの）、飲み物、食器類、ミキサー、とろみ剤、

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価基準 【観点】(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の復習 ・ 本時の学習内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートをもとに授業の流れを振り返る。 ・ 本時の学習内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒を数人あて、発問に答えてもらいながら、前時の内容を振り返る。 	
展開 85分	<ul style="list-style-type: none"> ○講義（20分） ・ 利用者の状態に応じた介護 ・ 食事の形態 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の状態（病気・嚥下障害など）に応じた食事について知る。 ・ 身体の機能に合わせた食事の形態を知る。 ・ 板書をノートやワークシートに書き写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の状態に応じた食事について説明し、実際に施設実習で見たり聞いたことはなかったか質問する。 ・ 食事の形態について、その特性を確認しながら説明する。 ・ 板書をきちんと書き写せているか、机間支援する。 	

	<p>○演習・グループワーク</p> <p>市販の介護食を食べてみて、どのように感じますか？におい、色・形、食感、味から、その食品の調理名や対象となる利用者の身体状況を考えてみましょう！ (20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループに配られた食品が何であるか、見た目や匂いで考え、話し合う。 食べてみて、味や食感からその調理名や対象となる身体状況を考え、話し合う。 考えをグループでまとめ、発表する。 <p>事例（要介護者の身体状況）をもとに、食事を準備、配膳してみましょう！ (35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 与えられた課題から、その援助方法、食事形態をグループで話し合う。 実際にそのメニューの準備、配膳をする。 工夫、配慮した点、声かけの方法を紙にまとめ、発表する。 各グループのものを見て回り、ワークシートに感想を書く。 <p>・ グループワークのまとめ (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の感想、学んだことをグループでまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市販の介護食について紹介し、それが何であるかふせて配布する。 まずは見た目、匂いから何であるか、どんな具材が入っているのか考え、次に食べてみて、調理名やどのような人を対象とした食事であるのかを考えた後、発表してもらうことを告げる。 全員が意見を述べられるよう、班長から順番に自分の考えを述べさせる。 なかなか意見が出てこないグループ・班員には何が入っていてどのような調理法が考えられるかを挙げてもらう。 調理名、対象者とそのように考えた理由を述べてもらう。 各グループに事例を与え、考えられる食事の形態、配膳、よりおいしく食べるための工夫を考えさせる。班員は順番に意見を出していく。 衛生面を考え、食品を扱う生徒には手洗いを徹底する。 盛り付ける際の見た目や食器の選択にも配慮するよう促す。 意見がまとまらないグループには事例のポイントを示す。 「生活の快」を視点とした食事について説明し、各自感想を書き、グループでまとめ、発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを持ち、意欲的にグループワークに取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 (ワークシート記入状況、観察) 介護サービス利用者の状態に応じた食事について理解し、それを踏まえた上で食事を楽しむ方法について思考を深めている。【知識・理解】 【思考・判断】 (ワークシート記入状況)
<p>まとめ 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 食事には生命維持の他に、楽しみとしての意義があることを再確認し、本時を振り返る。 次時の予告を聞く。 	